

事例8 家庭教育オピニオンリーダーとの連携

市町・公民館等	壬生町 生涯学習館
事業	家庭教育支援団体「壬生町子育て支援グループ『ポケット』」の活動



1 事業を始めたきっかけ

栃木県の家庭教育オピニオンリーダー研修修了者が地域で活躍できる場をつくることを目的の1つとして、町の家庭教育支援事業の一環として約20年前に子育て支援グループ「ポケット」への委託事業がスタートした。

2 活動内容

各活動は、未就学児の子とその保護者を対象として実施されている。保護者の悩み相談や保護者同士の交流の場をつくること、子どもの育成を目的とする。委託事業なので壬生町子育て支援グループ「ポケット」に実施内容や運営は全て任せている。生涯学習館の職員としては、開催会場の確保等の側面的支援を行っている。

【H28年度の活動内容】

事業名	実施回数等	主な内容等
親子ふれあいサロン	毎月1回 計12回実施	歯の話、夏祭り、わくわくクッキング、気を付けたい冬の病気、ダンボールで遊ぼう、クリスマス会、リズム遊び、人形劇 等 
すくすく広場	5月～2月の間約月1回計9回実施	作ってあそぼう、本物のスイカ割り、お部屋の中でおいもほり、えいごで楽しくリトミック、おえかきパズルであそぼう 等 

<p>ポケットカフェ</p>	<p>毎月第1・2・3木曜日 計32回実施</p>	<p>保護者同士の交流の場の提供、子どもたちへの絵本の読み聞かせ 等</p> 
<p>ポケットファンタジー</p>	<p>6月、9月、2月 計3回実施</p>	<p>人形劇、大型絵本、紙芝居 ピエロさんとバルーン、紙芝居 歌とお芝居、紙芝居 等</p> 

3 成果と課題

○成果

参加している方からの評判はとてもよい。母親同士のつながりの場を提供できている。中学生ボランティア（ふるみぶ）が、夏祭りに参加してくれるようになった（H28年度は20人、H29年度は約35人）

○課題

新しい参加者の掘り起こしが課題である。また、「ポケット」の活動を知らない人がまだ大勢いるので、広報活動に力を入れる必要がある。町の広報誌にも活動の全てが載せてあるわけではないので、新たな広報の方法を考える必要がある。

また、後継者問題も含め、「ポケット」の運営に関わる新たなメンバーが必要である。利用者の立場としての声を知るためにも、特に、子育て世代のメンバーがほしい。

4 その他

○今後の活動

「ポケット」のメンバー確保に関連するが、親学習プログラム指導者研修や家庭教育オピニオンリーダー研修に参加する人を増やす必要がある。しかし、団体と行政の連携、行政内の連携や分業が曖昧な部分がある。課題でもあるが、後継者の育成に行政が関わっていく必要があるかもしれない。
（調査協力：壬生町生涯学習館 主幹兼生涯学習係長 笹崎明）